

あなたへ

佐久間 舞

北海道・二二一・栄養士

あなたに出会えた事、大げさかもしれないけど、私の今までの人生で最高の出来事だよ。いろんな偶然が重なって出会った事、本当に運命だと思ったよ。

古いアパートの、隣の部屋に住んでいたんだよね。あの薄い壁一つ隔てた向こうにあなたがいたなんて、何だか信じられないよ。

あなたは知らない女の子と住んでいたよね。そして小さな犬を飼っていたよね。二人で仲良く犬の散歩に出掛けるところ、私はうらやましそうに見ていたんだよ。だけど私はいっつも下を向いて歩いてたから、犬ばかり見ていたよ。もしあの時顔を上げてあなたを見ていたら、何か違っていたのかな。

初めてあなたの顔を見たのは、大晦日だったね。その時はもう、あなたは女の子と別れて、私の隣の部屋から出て行った後だった。

偶然出会って、お互い何も知らずに話したね。元隣人だと分かった時は、二人で驚いたよね。そして新しい年を、一緒に迎えたね。

あなたと一緒にいた時間は、新しい感動の連続だった。初めての体験や、行ったことのない場所。あなたは色んな事を教えてくれた。

私の病気が判明してから、あなたの存在は私の一番の心の支えだったよ。

手術で辛い時、治療の副作用で辛い時、あなたの事を考えたら前向きに頑張ることができたよ。あなたはたまにしか病室に来てくれないし、すぐに帰ってしまうけど、それだけで充分だよ。嬉しくなるよ。

「頑張れ、大好きだよ」ってメール、泣ける程嬉しかったよ。頑張ろうって思ったよ。だからもう少しだけ嘘をついていてね。

あなたは素直な人だから、隠し事は向いてないって事知ってるよ。あなたが心を奪われたその人の所に行ってしまう事、私に止める権利はないけれど、もう少しだけ私を想うふりをしていて。私きつとくじけてしまうから。

病気が治るまでとは言わないから。お願い、あと少しだけ。

佳 作

*元隣人の彼と付き合い出して四ヶ月、私は病気が判明して入院生活に。入院が長引き、彼の心は他の女の人の所へ移っていった。けどまだ、すぎる気持ちが抑えられない。